

フジの育て方(1) — 鉢植え —

種類

フジは、日本に2種、中国に1種、北アメリカに4種類野生しています。日本ではこのうち、ヤマフジとノダフジの2種の他、まれに中国産のシナフジが栽培されています。

品種

ヤマフジ系.....白カピタン(花美短または甲比丹), 紫カピタン, 赤カピタン, アケボノカピタンなど。
ノダフジ系.....長崎一歳フジ, 野田一歳フジ, 八重黒竜, 九尺フジ, 昭和フジ, 口紅フジ, 本紅フジ, ニオイフジ, ニシキフジなど。

鉢植えの方法と管理(表, 図1, 2)

植え方.....図1の要領で行います。

用土.....(例)赤玉土...6

腐葉土...4

元肥.....緩効性化学肥料を5~6号鉢で2~4g用土に混ぜます。

灌水.....水切れさせないように注意します。
夏期は腰水を行ってもかまいません。

施肥.....6~8月の間, チッ素分は少なく, リン酸, カリ分の多い液肥を月に2~3回与えます。

剪定.....夏に伸びすぎたつるの先を軽く芯止めし, 冬に花芽を確認しながら全体の形を整えます(図2)。

害虫.....マイマイガが春から夏に発生するのでスミチオン乳剤の1,000倍液を散布し, 冬に卵塊を取り除きます。

病気.....枝や幹にコブ病が発生したらコブを深くえぐり取り, ストレプトマイシン剤を塗り, 2~3日後に上からつぎロウを塗ります。

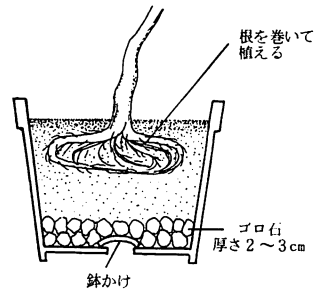


図1 鉢植えの仕方

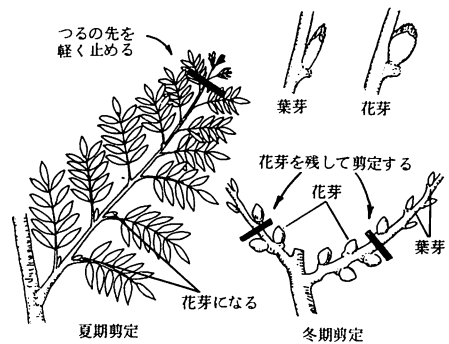


図2 剪定の仕方

表 鉢植えの年間管理

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生育				芽出し	開花	つるの伸長	花芽分化				落葉	
植え付け替え(3~4年に1回)			適期								適期	
剪定		冬期剪定			花から切り			夏期剪定	つるはえ, 制しきり取り			冬期剪定
施肥				月に2~3回液肥(例N:P:K=12:16:16) 1000倍液								

フジの育て方(2) — 地植え —

植え場所

日当たり良く、極端に乾燥しない場所で、やや粘土質土壌が適します。また、つるが長く伸び、近くの庭木や建物にからみつくので、ある程度これらから離して植えたほうが良いでしょう。

仕立て方

棚作りと1本仕立て(立ち木仕立て)があります。

棚作り

苗……………ノダフジ系の苗がよく使われます。また、フジ棚用の高接ぎ苗を使うとつるが早く棚上まで届くので、完成までの時間が短縮できます。

植え方……図1 参照

仕立て方…先端の芽を力強く伸ばし、棚上まで誘引します。(芽が伸び始めたところに、薄い液肥を2回ほど与えます。)なお、高接ぎ苗を使用する時は、苗が倒れないようにシュロ縄などで棚の柱に固定します。

冬に、棚上まで届いたつるの中で太いものを主枝として一本残し、他のつるは切り除きます。

翌年の冬に、主枝から伸びたつるを誘引して図2のように枝配りをしていきます。

一本仕立て(立ち木仕立て)

苗……………ヤマフジ系で、幹の太い大苗が良いでしょう。

植え方……棚作りと同じですが、必ず倒れないように支柱をします。

仕立て方…伸びたつるを、冬の剪定時に添え木などをして曲げ、樹形を作ります。また、余分な枝(つる)は切り除きます。

年間管理

鉢作りとはほぼ同じですが、棚作りでは、老化して花芽の付きが悪くなった枝を若い枝に更新します。また、樹勢が弱い木や苗には、寒肥を、11月～1月に1回与えるとよいでしょう。

寒肥の与え方

根元から約1.5m離れたところに穴か溝を掘り、その中へ腐葉土(堆肥)、油カス、骨粉を土に混ぜて埋め戻します。 配合例……腐葉土(堆肥)：油カス：骨粉=10：2：1

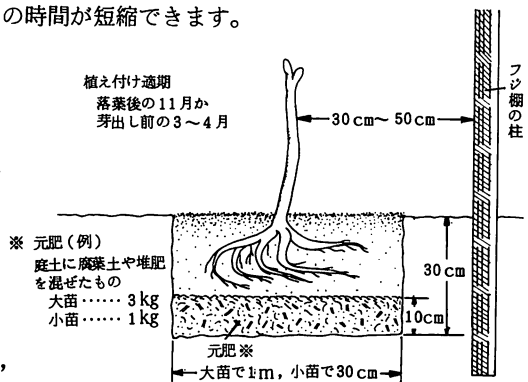


図1 地植えの仕方

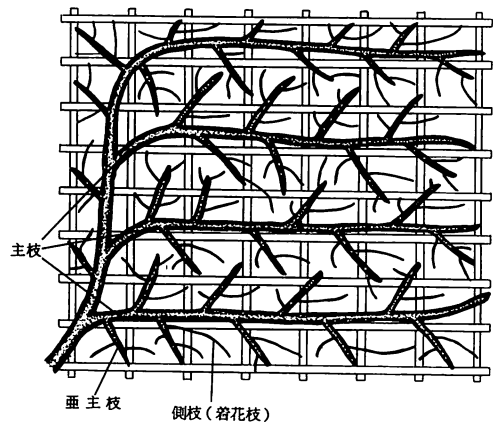


図2 枝の誘引の仕方